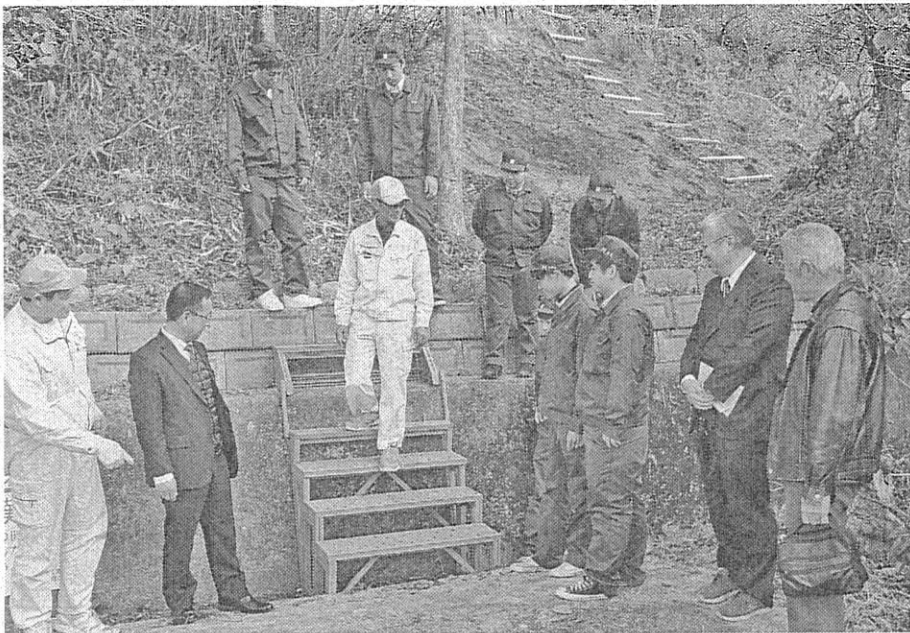


# 田辺工高生徒

# 避難階段とはしご自作

## 学校付近の斜面に設置

災害時に地域住民が避難しやすくなるよう、田辺工業高校(田辺市あけぼの)機械科3年の生徒7人が、同校から高台に続く斜面に自作の避難階段と避難はしごを設置した。



製作に携わったのは、吉田唯太郎君と大倉翔太君、和泉翔太君、磯村琉斗君、川口瑞貴君、北尾航大君、黒田拓巳君。自分たちで計画を立てて物作りに取り組み課題研究の授業で、7人で班をつくり階段とはしごを作った。

設置したのは、海拔17メートルの高台にある同校のテニスコート付近。指導に当たった同校機械科科長の高井正人教諭(49)によると、階段はアルミ製で、幅約1メートル、高さは約1・5メートルで、さび止めの塗装をしている。はしごは、幅約90センチ、ステンレスの鎖とアルミの板を組み合わせて、高さ約8メートルの斜面に10本のくいを打って固定。使用したアルミ素材は、同校で廃棄された製図台20台を解体し、再利用して賄った。

同校は災害時の緊急避難場

町内会の川辺弘嗣会長(右端)らに、設置した避難階段について説明する田辺工業高校の生徒や教諭ら

田辺市あけぼの

所として指定されている。だが、テニスコートからさらに高台にある同市南新方の田辺東部小学校やひがしコミュニティセンターに避難するには、テニスコート裏山の斜面を登る必要があった。

4月ごろ、避難路の整備に向けて、田辺市から避難階段製作の打診があった。当初は製作費用の補助を受ける予定だったが、廃棄する製図台を再利用することでコストを抑えられることから、費用は同校が負担して10月から製作を開始。放課後にも時間を見つけて作業し、1カ月ほどで完成させた。溶接などは高井教諭が担当した。はしごも作り、土地所有者の許可を得て設置。上りやすく避難路を整備した。

11日には、あけぼの町内会の川辺弘嗣会長や自主防災会の道協盟会長、斜面の土地所有者らを設置場所に招いて、高井教諭と生徒が大きさや強度、用途などについて説明した。

説明を受けた川辺会長(74)は「住民の避難がよりスムーズにできるようになり、安心できる。先生や生徒、地主さんが協力してくれて、大変うれしく思っている」と喜んだ。

吉田君(18)は「町内会長から『これはしっかりできている』と言われてもらって、期待に応えられたよううれしかった。階段やはしごがなければ、避難時にけがをする人もいるかもしれない。これからも、地域の方に役立ててもらえたら」。高井教諭は「生徒が、自分たちで地域に役立つ物を考えて作った意義は大きい」と話した。